

阪急東宝グループの創始者 小林一三 生誕 150 年記念展覧会 第 2 弾

「はっけん！小林一三と宝塚」開催中

公益財団法人 阪急文化財団が運営する逸翁美術館では、阪急東宝グループ（現 阪急阪神東宝グループ）の創始者として知られる実業家・小林一三の生誕 150 年を記念した展覧会を 2023 年度 4 回にわたって開催していますが、その第 1 弾である「阪急昭和モダン図鑑」展を 4 月 15 日（土）～6 月 18 日（日）に開催し、大変ご好評いただきました。

第 2 弾となる「はっけん！小林一三と宝塚」展では、小林一三が手がけた沿線開発のシンボル「宝塚」にスポットライトをあて、7 月 1 日（土）～9 月 3 日（日）の期間で開催しています。1911（明治 44）年開業の温泉施設を皮切りに、現在の宝塚大劇場周辺には映画館、遊園地、動物園、植物園、図書館、球場、プール、レストランなどが次々と開設されました。1960（昭和 35）年には、これらを総合して「宝塚ファミリーランド」と命名され、長きにわたり多くの人びとに親しまれました。いつの時代も宝塚の中核だった宝塚歌劇は来年 110 周年を迎えます。

本展は「文学青年小林一三」「宝塚歌劇の歴史」「レトロなファミリーランド」の 3 部構成で 1910～1950 年代の宝塚を振り返り、当時のポスター、写真、映像、小林一三の自筆原稿や宝塚にゆかりのある遺愛品を公開。あわせて最新の文献調査でわかった新発見や再発見も紹介します。

概要は次のとおりです。

【会 期】2023 年 7 月 1 日（土）～9 月 3 日（日） 開館 56 日／65 日間中

【休 館 日】毎週月曜日 ただし 7 月 17 日開館、7 月 18 日休館

【会 場】逸翁美術館 展示室

【観 覧 料】一般 700 円 ※中学生以下無料。各種割引あり。

【開館時間】午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

【主な出品】①ポスター「宝塚少女歌劇公演」（1938 年）

②ポスター「楽しい宝塚へ」（1950 年）

③逸翁筆扁額「藝又藝」（1951 年）

④小林一三生家模型

⑤宝塚ファミリーランド映像 他、約 120 点

【関連企画】7 月 22 日（土）14 時

学芸講座「知られざる 1910 年代の宝塚

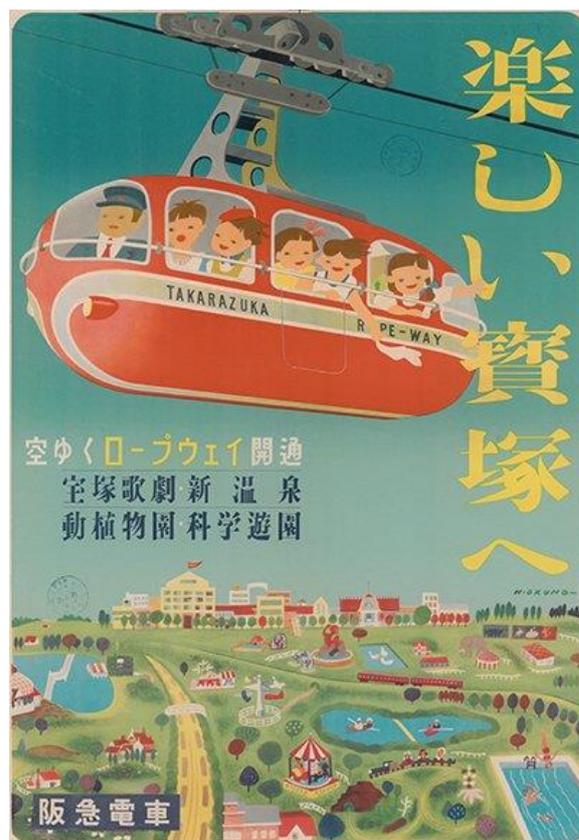
～学芸員の調査方法おしえます～」学芸課長補佐 正木喜勝

8 月 13 日（日）14 時

学芸講座「小林一三が描いた - 誰もがタノシイ宝塚」館長 仙海義之



①ポスター「宝塚少女歌劇公演」（1938年）



②ポスター「楽しい宝塚へ」（1950年）



③逸翁筆扁額「藝又藝」（1951年）

■「逸翁美術館」について

観覧料：一般【個人】700円【団体】500円

学生（高校生以上）【個人】500円【団体】400円

小人（中学生以下）【個人】無料【団体】無料

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）

所在地：大阪府池田市栄本町12-27

■ご参考「小林一三」について

小林一三は、1873（明治6）年、現在の山梨県韮崎市に生まれました。「一三」の名は、誕生日1月3日にちなみます。19歳の時に慶應義塾を卒業し、三井銀行で本店勤務の後、大阪支店に赴任します。元来、文学青年で小説家志望であった一三ですが、銀行員時代の先輩達との出会いから事業の面白さに目覚めていきました。

1907（明治40）年、三井銀行を退職し、箕面有馬電気軌道（現、阪急宝塚線・箕面線）を創立します。1910（明治43）年に運行を開始した電鉄事業は、沿線の住宅開発を併せて行うという独創的なアイデアによって好調なスタートを切りました。

1918（大正7）年に社名を阪神急行電鉄と改め、1920（大正9）年には神戸線が開通し、「阪急電車」として広く親しまれるようになりました。一方梅田では、1929（昭和4）年に日本初のターミナルデパートとなる阪急百貨店（現、阪急うめだ本店）を開業し、洋食をメインとした大食堂は大人気となりました。また、宝塚歌劇や阪急ブレイブス、そして東宝を設立するなど、たくさんの人たちに楽しんでいただく事業を次々に成功させていきました。

このような一三のユニークな発想から生まれたビジネスモデルは、日本の私鉄経営をはじめとして、様々な事業者に影響を与えました。そうした手腕が見込まれて、東京電燈（現、東京電力）の経営を立て直し、1940（昭和15）年には第二次近衛内閣の商工大臣に、戦後には戦災復興院総裁に任命されました。

また、一三個人としては、幅広い著作を遺した文化人としての業績もっており、日常の暮らしの中では、趣味の俳句や茶の湯を通じて多くの人々との交流を楽しみました。

多方面に足跡を残した一三は、1957（昭和32）年、享年84歳で没しました。しかし、多くのお客様の暮らしに潤いをお届けするための新たなライフスタイルや娯楽の提案を第一とする一三の精神は、現在も阪急阪神東宝グループの様々な会社に受け継がれています。そして一三が創始した数々の社会事業・文化事業についても、今なお社会の中で息づいています。

■展覧会の各回の概要は、以下のニュースリリースをご確認ください。

「逸翁美術館 阪急東宝グループの創始者 小林一三の生誕150年を記念した展覧会を開催します」（2023年1月11日付）

<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/release/docs/fa1ee37341524530d4137cc267b0e1c860ce7cae.pdf>

【配付先】青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、関西レジャー記者クラブ、豊中記者クラブ

本件に関するお問い合わせ先

□広報担当 宮井 肖佳（主任学芸員） □展示担当 正木 喜勝（学芸課長補佐）
公益財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館 〒563-0058 大阪府池田市栄本町12-27
Tel. 072-751-3865 Fax. 072-751-2427 E-Mail: masaki-yoshikatsu35@hankyu-group.jp